事例No.	1904
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	岩手県

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	広域化等・DX

事例内容・タイトル

病院間の診療情報共有システムの整備

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【岩手県】
病院間の診療情報共有システムの整備

広域化等　DX　病院事業

岩手県医療局

● 取組の概要

診療情報のバックアップと病院間における共有を進めるため、全県立病院（20病院6地域診療センター）の診療情報を患者ごとに一元化し、時系列、項目ごとに全病院で閲覧できるシステムを導入した。

◆総事業費　システム開発費640,348千円（4か年）

◆背景

- 東日本大震災による津波で、被災県立病院の紙カルテをはじめとする各種診療情報の記録媒体が滅失・散逸した。
- 県立病院（20病院6地域診療センター）の機能分化・連携強化を進める上では、診療情報の共有が必須であり、その手法を検討することとした。

◆具体的内容

- 自病院の診療情報のみを閲覧できる院内サーバと、そのデータを集約し、全病院の診療情報が閲覧できるセンター統合サーバを整備。
- 全病院の診療情報について名寄せを行い、異なる病院を複数受診しても、1人の患者の履歴（PHR）として表示することで、通常診療にも活用。
- 共有データは、SS-MIX※標準化ストレージの項目（投薬、注射、検体検査）及び12項目（診療情報提供書、退院時サマリ、放射線画像、超音波画像、心電図波形、内視鏡画像、循環器動画、放射線レポート、病理報告書、超音波検査レポート、内視鏡レポート、心カテレポート）。

※　医療機関の電子的診療情報を他のシステムと交換・共有できるよう、診療情報を蓄積・管理する標準的な仕様を定めた国内規格。

◆効果

- 異なる県立病院の医師同士が同じ患者の同じ画面を見ながら転院や治療相談ができる（新型コロナウイルス感染症患者への対応でも活用）。
- 画面を共有しながらカンファレンスができる。
- 紹介元病院での治療経過の確認や、紹介先へ転院後の治療状況を確認できる。
- 緊急検査等の際に、他の県立病院の処方内容を確認できる。

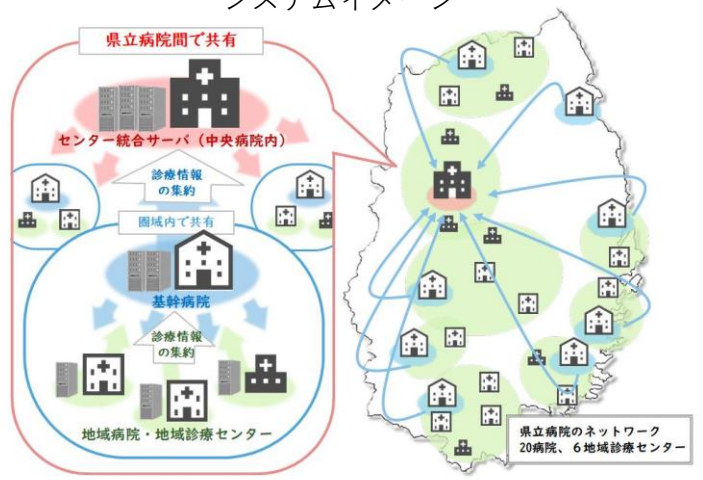
● 取組のポイント

- SS-MIX標準化ストレージ等を活用することで、各病院によって異なるデータ形式を一元化することが可能となった。
- 転院・治療相談、カンファレンス等に月2,000件程度活用されている。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　1,185,667人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　15,275km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　4,888床（令和3年度決算）

システムイメージ



● 取組のスケジュール

- 平成29～30年 院内・センター統合サーバ整備
- 令和元～2年 院内サーバと医療器械の接続整備
- 令和元年11月18日～ 運用開始

● 今後の展望

- 共有できる情報の追加整備の検討。
- 病院の機能分化と連携強化（公立病院経営強化ガイドライン）を進める基盤として、引き続き積極的に活用する。